

Medical Technology News

臨床検査室新聞

痛い尿管結石

自分の経験を踏まえて

この新聞を読まれている皆さんの中にも尿管結石を経験した人は少なくないと思いますが、私もその一人です。

腎臓にできた結石が何らかの原因で尿管に落ち、詰まると左右どちらかの腰背部に激痛を伴うことがあります。これは腎盂内圧が急激に上昇するためといわれています。腎盂内圧が一定になると激しい痛みは治まりますが、そのまま長期間放置すると腎機能を失うことがあるので注意が必要です。

治療法は、一般的に小さな結石ではたくさん水を飲んだり、体を動かしたりして自然に排石されるのを待ちます。自然に排石できない結石に対しては、体外衝撃波腎

尿管結石破砕術（ESWL）や経尿道的尿管破砕術（TUL）などが行われます。

予防法としてよく聞くのが、たくさん水分を摂取し、体を動かすことによつて腎臓に結石ができないようにしたり、結石の主成分であるシュウ酸を多く含む食材を食べないようにすることですが、なかなか大変です。

余談ですが、自分の経験では入浴して体を温めると幾分痛みが和らいだように感じました。



写真A

写真Aは、私の腎臓にできた結石で、約10mmの大きさでした。写真Bは、尿管に結石が詰まって腎盂・腎杯が拡張した状態で水腎症とい



写真B



写真C

うことがあります。写真Cは、膀胱出口近くの尿管に詰まった結石で、膀胱に出ると今までの痛みが嘘のように治まります。

2011年6月 第24号
発行元 八雲総合病院 臨床検査室



ほと time

最近の浴衣は色、柄共に華やかになってきましたね。お祖母ちゃんやお母さんが若い頃に着た浴衣に半襟、帯揚げ、帯締めなどの小物を使って今風に着てみてはいかがでしょうか。今年は絞り染めが流行とか。八雲祭りに浴衣で出店を見て歩きたいと思っ



検査の基本

尿糖について

一般に、血糖値がある程度の濃度（170mg/dl位）以上になると、尿糖が検出されます。これを、糖の排泄閾値といいます。実際は糸球体の濾過原液中に糖があらわれ、これが近位尿管で再吸収されています。この再吸収を上回る糖の排泄がある時に、尿糖が出現します。



「災害時の糖尿病医療」お薬手帳の存在意義も再確認



今回は、検査とは直接関係ありませんが、先日札幌で開催された糖尿病学会のシンポジウム（テーマ「災害時の糖尿病医療」）の内容を掲載します。最初に学会理事長の門脇氏か



ら、震災発生直後に、インスリン入手のための相談窓口を学会ホームページに掲載したこと、被災地で無償・医師を介さずにインスリンを提供する現物支給を国に要請したことが報告されました。また、インスリン在庫状況の確認や、インスリンカラーカテゴリーの作成などを通じて、被災地での糖尿病医療をバックアップしている現状の説明がありました。そして、今後災害に強い糖尿病医療システムを構築していく必要性を提言。

そのためには、患者さん自身や医療機関、製薬企業それぞれが災害時の『備え』をあらためて意識すべきと強調しました。特に被災地の患者さんでは、「お薬手帳や糖尿病連携手帳が非常に役立った。持っている患者さんと持っていない患者さんで大きな差が出た」と述べ、患者さん情報を把握できるツールの意義を説きました。

6月になり、もう直ぐ夏です。去年の夏は記録的な猛暑でしたが、今年はどうなるでしょうか。東日本大震災以来、全国的に節電が叫ばれていますが、みなさんは何か対策をたっていますか？節電も大切ですが、熱中症には注意をしたいものです。

編集後記

糖尿病に限らず
ご自分のインスリンや内服薬のお名前、容量の書いたものを持ち歩きましょう!!

